

買い物困難者対策としての交通支援策の検討

前橋工科大学 学生会員 ○大鹿 拓寛
 前橋工科大学 学生会員 山本 祐之
 前橋工科大学 正会員 湯沢 昭

1. はじめに

今日、日常の買い物に不便を感じている「買い物困難者」の増加が全国的に問題となっている。買い物困難者とは、農林水産省において「最寄りの店舗まで直線で500m以上離れ、自動車を持たない人」と定義し、その数は全国で910万人に上るとしている¹⁾。これはモータリゼーションの進展や郊外型大型商業施設の出店による中心市街地の中小零細店の淘汰、バス路線の廃止など公共交通機関の削減、人口減少や少子高齢化など様々な要因があげられる。日本における買い物困難者は、中心市街地や市街地郊外、農山漁村など多様な地域に存在している。特に地方都市における中心市街地の衰退や買い物困難者の増加の問題は顕著で、早急に解決すべき問題である。

買い物困難者への買い物支援の方法としては、「①身近な場所に店をつくる」、「②商品を届ける」、「③出掛けやすくする」の3つの方法がある(図-1)。「①身近な場所に店をつくる」方法とは、移動手段を持たない買い物困難者が住む地域に、自力で移動できる範囲に生鮮食料品や日用雑貨を扱う店を作り、日常の買い物ができるようにする方法である。「②商品を届ける」方法とは、地元の商店などに電話で注文し、配達してもらう方法やカタログやテレビの通信販売、インターネットを利用した買い物の方法である。「③出掛けやすくする」方法とは、買い物ができる商店やスーパーに送迎する方法であり、買い物バスや乗合タクシーの運行などがある。

現在、「①身近な場所に店をつくる」、「②商品を届ける」という方法は普及しやすく全国的に事例も多い。しかし「③出掛けやすくする」という方法は全国的にも事例が少なく、普及しづらい。そこで本研究では、「③出掛けやすくする」に着目し、新たな交通支援策として、相乗りタクシーを活用した買い物支援に着目するものとする。そして買い物支援の新たな方法とし



図-1 買い物支援の方法²⁾

て、交通支援の観点から相乗りタクシーを活用することを前提として、その適用可能性について調査・研究することを目的としている。

2. 研究方法

本研究の流れを図-2に示す。

(1) 群馬県内の買い物支援

買い物支援のあり方の参考にし、どのような買い物支援が買い物困難者にとって必要かを明らかにする為、まず群馬県内で行なわれている買い物支援にはどのようなものがあるか現状把握を行なった。そして実際に買い物支援を行なっている先進的な地域である、群馬県館林市かごめ通り商店街のかごめ六斉市(写真-1)における取り組みと商店街の状況を視察した。

(2) 買い物困難者の現状把握

買い物困難者の現状を把握する為に、群馬県北群馬郡吉岡町全域の各世帯を対象として行なった、「吉岡町における交通行動実態に関する調査」のアンケート結果の分析を行なった。図-3は調査対象の群馬県北群馬郡吉岡町の位置を示しており、表-1はアンケート調査の概要である。

(3) 相乗りタクシー導入の問題点・改善点の把握

相乗りタクシーとは、「複数の人たちが一台のタクシーに相乗りすることにより、一人あたりの利用料金を削減する方法」であり、「いつでも・どこでも・だれとでも」利用可能な交通手段である。既存のタクシー

キーワード 買い物困難者、交通支援

連絡先 〒371-0816 前橋市上佐鳥町460番地1 前橋工科大学工学部社会環境工学科

TEL/FAX 027-265-7362 E-MAIL: yuzawa@maebashi-it.ac.jp

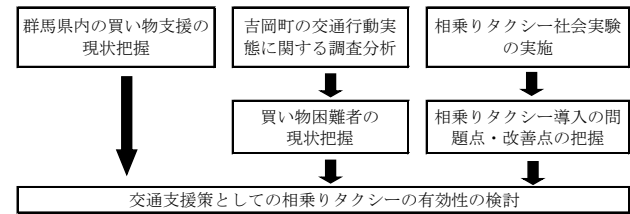


図-2 研究の流れ



写真-1 かごめ六斎市



図-3 アンケート調査実施地区

を利用する為、新たな投資や制度の改変等は必要ではなく、車両の有効活用が期待できるものである。本研究では、相乗りタクシーを導入するにあたっての問題点・改善点を把握する為に相乗りタクシーの社会実験を行なった。便宜的に、利用者の徒歩圏内で集合場所を設定し、さらに目的地を固定する方法をとった。対象とする地区は、群馬県前橋市上長磯地区と広瀬地区で、それぞれ上長磯地区は平成 23 年 10 月に 19 名、広瀬地区は平成 24 年 3 月に 6 名で行なった。両地区共に料金は片道 300 円で、目的地を前橋市中心市街地と設

表-1 アンケート調査の概要

調査地域	群馬県北群馬郡吉岡町全域
配布日	平成24年6月1日
回収期限	平成24年6月30日
配布方法	個別配布
回収方法	郵送回収
配布枚数	6,858票（全戸配布）
回収枚数	2,239票
回収率	32.6%
調査項目	・個人属性 ・鉄道の利用状況 ・バスの利用状況 ・日常の買い物について ・公共交通の整備について



図-4 社会実験対象地区

定した。対象とする地区と前橋市中心市街の位置を図-4 に示す。

3. 研究結果

(1) 群馬県内の買い物支援の現状

群馬県内の買い物支援の事例として以下のようなものが挙げられた。

- ・株式会社フレッセイによる「フレッシュ号」の運行（移動販売）
- ・群馬県館林市かごめ通り商店街による「かごめ六斎市」の開催（定期市の開催）
- ・セブンイレブンによる小型電気自動車を用いた「セブンらくらくお届け便」（宅配サービス）
- ・生活協同組合のパルシステム（宅配サービス）

本研究では上記の中のかごめ通り商店街を視察した。群馬県館林市のかごめ通り商店街では毎月第 2・第 4 土曜日にかごめ六斎市を開催している。視察日は平成 24 年 8 月 11 日（土）で、かごめ通り商店街会長より話を伺った。以下、得られた知見を示す。

- ・商店街の空き店舗を利用し生鮮食料品などを販売
- ・六斎市が開かれる「かごめふれあい館」は空き店舗

を館林市の商店街に対する補助金を活用して、賃貸
契約を結んで使用

- ・六斎市は郊外店に行くことができない、地域の高齢者にとって無くてはならない場所となっている
- ・六斎市以外の日は地域の休憩スペースとして開放し、高齢者の憩いの場所となっている

以上より、かごめ六斎市は単に高齢者の買い物支援を行う場所になっているだけでなく、地域のコミュニティを保つ重要な場所となっていると考えられる。

(2) 吉岡町における買物困難者の現状

本研究で行なったアンケート調査地である吉岡町は、群馬県のほぼ中央に位置し、榛名山の南東の山麓と利根川地域に展開し、東西は約 9.5km、南北約 6.5km、面積は 20.5km²、北は渋川市、西は榛東村、東及び南は前橋市に接しており、平成 22 年の国勢調査では県内で 1 番の人口増加率となっている³⁾。以下アンケート調査の結果を示す。

まず吉岡町において農林水産省の定義する買い物困難者（最寄りの店舗まで直線で 500m 以上離れ、自動車を持たない人）は 2239 世帯中 83 世帯であり、3.7%という結果になった。

次に生鮮食料品や日用雑貨などの購入方法の回答結果を図-4 に示す。スーパーマーケットが全体の 66%を占めており、次いで大型ショッピングセンターが 25%と多い。個人商店は 3%しかなく、近くに個人商店がない、あるいは郊外的大型店の出店によるものが影響していると考えられる。

また自宅から生鮮食料品や日用雑貨などを購入する最も近い店舗までの距離の回答結果を図-5に示す。最も近い店舗まで500m未満の世帯は12%にとどまり、多くの世帯が自宅から遠い店舗への買い物を強いられていることが分かる。

次に前述した自宅から最も近い店舗までの距離と、生鮮食料品や日用雑貨などの買い物に対する意識の回答結果をクロス集計した結果を図-6 に示す。店までの距離が長くなるほど生鮮食料品や日用雑貨などの買い物に不便を感じていることが分かる。

図-7は生鮮食料品や日用雑貨などの買い物に対する意識の地区別の回答結果である。「非常に不便」と「やや不便」という回答の合計の割合が最も少ないのは大久保寺下で、次いで大久保寺上である。ここには吉岡バイパスが通っており、近くに大型小売店舗などの買

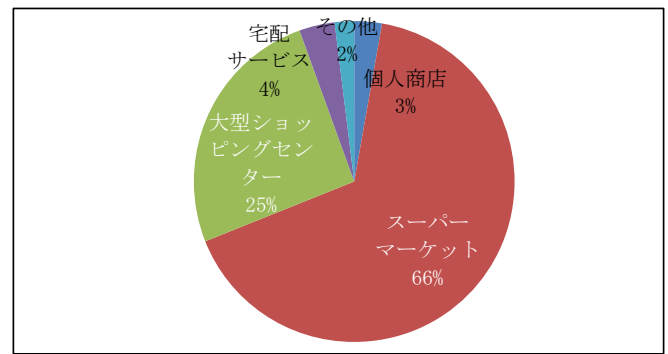


図-4 生鮮食料品・日用雑貨の購入方法

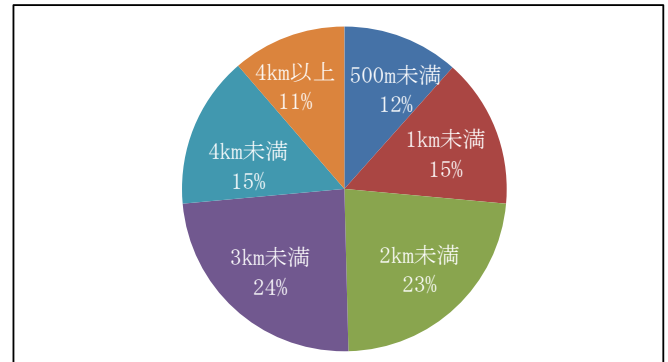


図-5 自宅から最も近い店までの距離

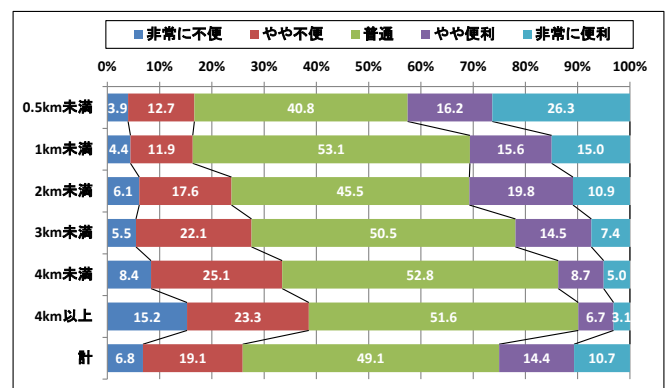


図-6 店までの距離と買い物意識

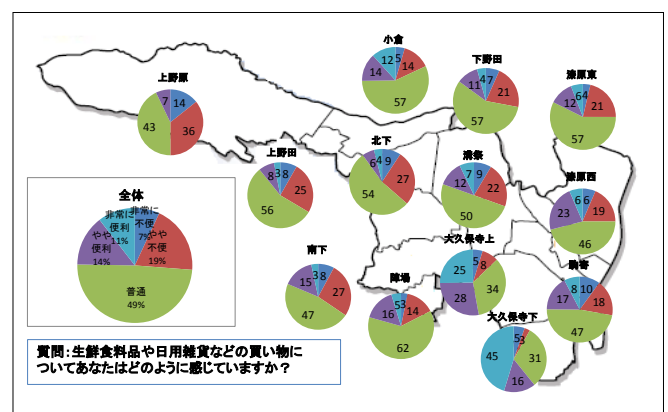


図-7 吉岡町地区別買い物意識

い物をする店が多い為この結果になったと考えられる。反対に「非常に不便」と「やや不便」という回答の合計の割合が最も多いのは上野原である。上野原は山間

部に位置しており、近く買い物をする店がないのが要因として考えられる。同じ町内でも買い物に対する意識には大きな地域差があることが分かる。

図-8 は「あなたは日常の買い物についてどのように感じていますか」という質問の回答を質問項目毎に「非常に難しい」と「どちらかと言えば難しい方である」の合計を降順で並べたものである。日常の買い物において、「難しい」と答える割合が高いのは「近所の人に買い物を頼む」、「ヘルパーやボランティアなどに買い物を頼む」といった、他人に買い物を頼むといった項目である。次いで「自分がバスを利用して買い物に行く」、「自分がタクシーを利用して買い物に行く」といった、公共交通を利用した買い物の項目が挙げられた。反対に、日常の買い物において「容易」と答える割合が高いのは、「自分が自動車やバイクで買い物に行く」、「家族と一緒に買い物に行くこと」、「家族に買い物を頼む」など自らの力で買い物に行く、または家族の力を借りて買い物をするといった項目が挙げられた。

(3) 相乗りタクシー導入可能性について

相乗りタクシーの社会実験に参加した利用者を対象に行なったアンケート結果から、相乗りタクシーの評価点と課題点を以下に示す。

[評価点]

- ・料金が手頃なこと
- ・迎えに来てもらえて、目的場所で降りられること
- ・希望する時間に利用できること
- ・高齢になると外出するのが億劫になりがちで、タクシーを利用できれば外出しやすくなること
- ・町内の知人と一緒なら安心できること

[課題点]

- ・乗降場所や相乗り相手を探すのが面倒なこと
- ・知らない人たちとの乗り合わせ
- ・タクシー会社の問題
- ・相乗りタクシーの内容の周知

アンケート結果から以上のような意見が挙げられ、課題点もあるが、相乗りタクシーに対する満足度は高く、実際の相乗りタクシーの運行に関して、前向きな意見が挙げられた。

4. まとめ

買い物支援の方法は対象とする地域や年代など様々な要因によって異なる。住民や商店、行政などが力を合わせて、地域の実情に応じた仕組みを構築すること

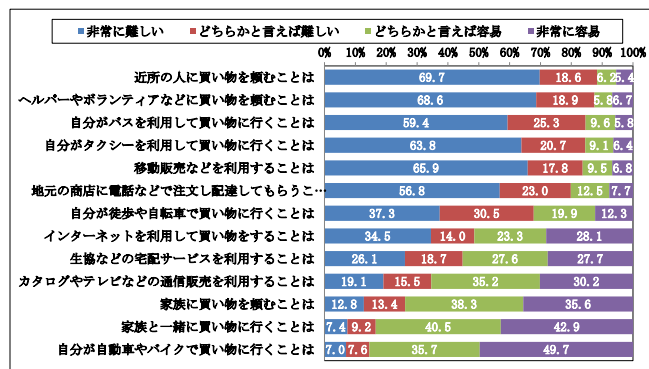


図-8 日常の買い物意識

が重要だと考えられる。そして買い物支援のあり方として重要なのは、本研究で視察したかごめ通り商店街のように地域のコミュニティを重要視したものであると考えられる。それは、地域全体としての買い物困難者への買い物支援に繋がるものであり、本来あるべき地域コミュニティの構築に繋がるものと考えられる。

アンケート調査の分析結果から、日常の買い物に不便を感じさせる大きな要因としては店までの距離が挙げられた。また吉岡町における農林水産省の定義する買い物困難者は3.7%と少なく、これはどの自治体でも同様のことが言えると考えられる。しかしながら買い物支援を必要としている人は少なからず存在するのは事実である。このような人たちにどのような支援の方法があるのか。これは採算性の問題などから、バスや鉄道などの公共交通を利用した支援方法は難しいと考えられる。そこでタクシーを用いた「相乗りタクシー」を活用した買い物支援がある。タクシーを活用することで様々な状況に柔軟に対応することができると考えられ、相乗りタクシーは現在日本が抱える問題である、買い物困難者問題の解決や公共交通空白地帯の解消、さらには高齢者の健康や地域コミュニティの維持に繋がると考えられる。しかし実際の運行には課題点もあり、改善策の検討が今後必要となり、買い物困難者の問題の解決には時間がかかるのが現状である。

参考資料

- 1) 農林水産省農林水産政策研究所「食料品アクセス問題の現状と対応方向」
- 2) 「ぐんま広報」平成24年2月
- 3) 吉岡町 HP <http://www.town.yoshioka.gunma.jp/>
- 4) 高橋宏幸：買い物困難者を対象とした交通支援に関する検討、地域・交通計画研究室 HP <http://www.maebashi-it.ac.jp/~yuzawa/>